

銅・アルミ

市況見通し

9月

銅

7月の伸銅品生産

(速報値)は、前年同月比で10・1%増の5万8470トとなった。前年同月よりも稼働日が多かったこともあり、14品目中12品目が前年同月実績を上回った。

7月の銅電線出荷量(推定値)は同1・3%減の5万1200トで、うち国内が同1・8%減、輸出が同31・1%増だった。



橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート

9月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	8000~9500 ^F _ℓ	横ばい
電気銅建値	116~147万円	横ばい
為替(1 ^F _ℓ)	140~150円 (1カ月間TTM)	円安

銅スクラップ景況予想

8月の電気銅建値は、月初の142万円が月末には137万円へと下落した。流通(一次問屋)の8月在庫は、伸銅品の生産減および発生減により品薄だった。

相場の急落により、売れず買えずのこう着状態。需要面もこう着状態となっている。伸銅品生産量はプラスに反転した。

LME銅・為替予想

今月は「米・FRB(連邦準備制度理事会)

プが同22%減の2万6605ト。

銅輸入は、電気銅が同55・6%減の323ト、銅スクラップが同45・5%増の1万5571トだった。

「米・FRBの金融政策」は、パウエルFRB議長が8月23日の講演で政策を調整する「時期が来た」とし、9月に利下げに着手する可能性を示唆。最初の利下げ幅がどの程度になるかに注視したい。

輸出はアルミ新地金が同17・9%減の10万8177ト、アルミ二次合金が9・4%増の9万5719ト、アルミスクラップが同177・6%増の805ト、アルミ合金スクラップが同14%増の7499トだった。

アルミ

7月のアルミ庄延品生産量(板類・押出類合計)は同2・5%増の15万1104トとなり、前年同月比でプラスに反転した。

7月の生産量は板類が同0・9%増の9万3033ト、押出類が同5・2%増の5万8071トだった。

7月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同2・3%増の

6万5718ト(プラスに反転)。出荷は同2万9804ト、アルミ缶が同17・4%増の7702ト。

輸入はアルミ新地金が同17・9%減の10万8177ト、アルミ二次合金が9・4%増の9万5719ト、アルミスクラップが同177・6%増の805ト、アルミ合金スクラップが同14%増の7499トだった。

必要面は、先月の相場低迷による持ち込み量の減少に伴い、在庫薄が予想される。

7月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同2・3%増の

9月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ 現物後場買い	2400~2600 ^F _ℓ (現物後場買い)	強い
スクラップ	プラス10~プラス20円 (前月最終価格より)	強い

アルミスクラップ景況予想

LME価格は2252^F_ℓから2500^F_ℓ台へと上昇した。このため流通(一次問屋)は、出荷が増え在庫薄となった。

アルミスクラップ景況予想

必要面は、先月の相場低迷による持ち込み量の減少に伴い、在庫薄が予想される。